

平城宮跡歴史公園スマートチャレンジ

—新技術を活用した公園のスマート化に向けた社会実験—

公募概要

平城宮跡歴史公園の抱える現状・課題

- 平城宮跡歴史公園は、特別史跡・世界遺産「平城宮跡」を国営公園として保存活用を図っている。
- 平成30年3月に利用拠点となるエリアがオープンし、年間約140万人程度の来園が見込まれる一方、広大な園内での移動の円滑化や、復原整備以外の手法による更なる歴史体験の充実等が今後の課題。

解決方針

従来より取組んでいる特別史跡・世界遺産「平城宮跡」の保存へ支障を及ぼさないことを前提として、産学官コンソーシアムのもと、民間提案型スマート技術を活用して、公園マネジメントを抜本的に改善

① 民間提案型スマート技術の公募（3月1日）※別紙②参照

- 国営公園の抱える課題テーマ及び解決の方向性を設定し、それに対する民間企業等からの提案を公募。



② 民間事業者の選定（6月以降）

- コンソーシアムにおいて、園内で社会実験を行う民間事業者等を選定。



③ 民間事業者による社会実験の実施（夏以降）

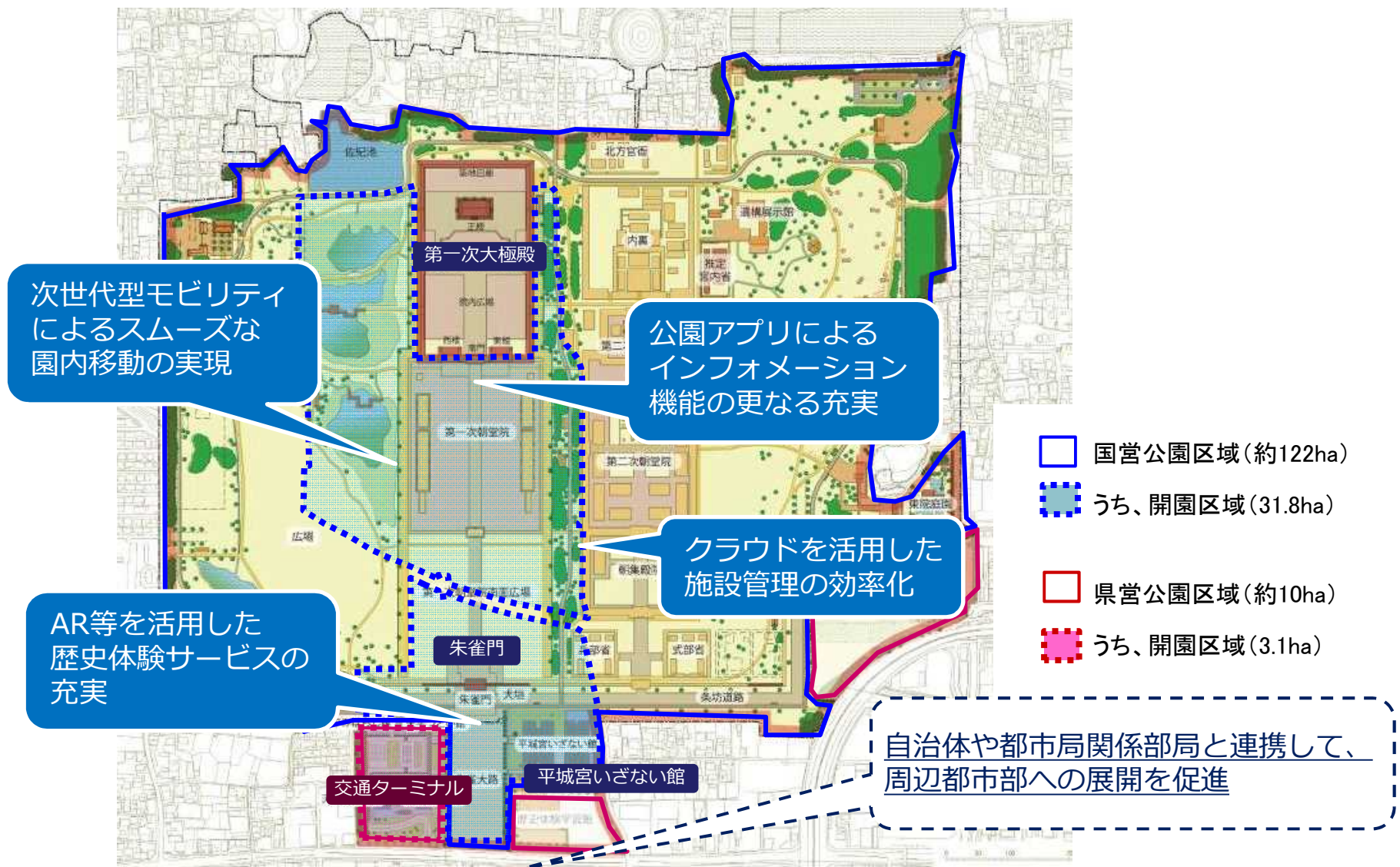
- 選定された民間事業者が、園内において実用化に向けた社会実験を実施。
- コンソーシアムにおいて実験結果を分析・検証を行い、民間事業者へフィードバック。



④ スマート技術の実用化の検討・実施（2020年以降順次）

- 実験結果を踏まえ、民間事業者の独立採算ベースでの実用化を検討。
- 実用化されたものは、国営公園の管理委託業務と連携した運営へと移行。

平城宮跡歴史公園の目指す姿



次世代型モビリティによるスムーズな園内移動の実現

公園アプリによるインフォメーション機能の更なる充実

クラウドを活用した施設管理の効率化

AR等を活用した歴史体験サービスの充実

- 国営公園区域(約122ha)
- うち、開園区域(31.8ha)
- 県営公園区域(約10ha)
- うち、開園区域(3.1ha)

自治体や都市局関係部局と連携して、周辺都市部への展開を促進

- ① 民間提案型スマート技術の展開に向けた協議・調整のプラットフォームとして、学識者や周辺自治体を含めた「平城宮跡歴史公園スマートチャレンジコンソーシアム（仮称）」を設置。

平城宮跡歴史公園スマートチャレンジコンソーシアム（仮称）

有識者数名

国営公園事務所（事務局）

国営公園・県営公園 関係者

文化庁、奈良文化財研究所

周辺自治体（奈良県・奈良市関係部局）

⑤ **社会実験の実施（夏以降）**

選定された
民間事業者

⑥ ・結果の分析検証
・実験への
フィードバック
・実験間での
データ共有

② **公募（3月1日）**

③ **提案（5月31日）**

④ **選定・契約（6月以降）**

スマート技術
を有する
民間事業者

（コンソーシアムへ参画）

→参画後は、社会実験の進捗・結果を報告

- ⑦ 実験結果を踏まえ、民間事業者の独立採算による実用化を検討し、実用化。（実用化されたものは、国営公園の管理委託業務と連携した運営へと移行。）

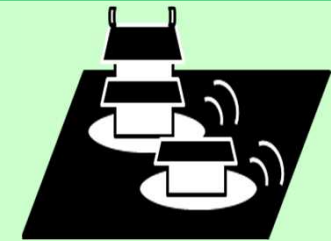
① 新たなモビリティサービス

自動運転等による次世代型モビリティを活用して、安全かつ効率的な園内移動を実現。



② AR技術を活用した歴史体験サービス

最新のAR・MR技術等を活用して、公園の有する文化財等に関する歴史体験サービスを多言語で提供。



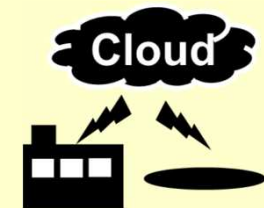
③ アプリケーションによる公園情報の受発信サービス

携帯向けアプリを活用して、園内の利用情報やイベント情報等を、多言語で送受信できるシステムを構築。



④ クラウドによる施設管理の効率化

施設管理の効率化・迅速化を図るため、クラウドシステムを活用した公園台帳システムを構築。



⑤ その他

公園の利用や維持管理・メンテナンスの飛躍的な向上に資するもの（例：ドローン、AIカメラ、デジタルサイネージ 等）

⑥ データプラットフォーム

①～⑤で取得される各種ユーザーデータの収集の仕組み及び当該データの統合・分析・共有のためのプラットフォーム

※ : 公園利用サービスの向上 : 公園の運営・維持管理の効率化 : その他

